

「紫陽花や 藪を小庭の 別座敷

松尾 芭蕉



『子珊の別屋の庭は、むやみに手の入った庭ではなく、自然のままの庭であった。そこには、今まさに紫陽花が咲いている。』

芭蕉が最後の旅へ出る前に、送別の歌会を開いてくれた門人への感謝とおそらくこれが今生の別れになることを予期していた芭蕉の寂しさを、紫陽花の美しさ、儚さに込めた芭蕉の想いを感じる作品。

